

大雪への備え



雪道での注意ポイント

● 不要不急の外出は控える

事前に水や食料、燃料等を備え、外出は控えましょう。



● スリップ注意

冬タイヤ等を装着していても、スリップによる事故や立ち往生するおそれがあります。

● 両手はいつでも使えるように

雪道を歩くときはなるべく手に荷物を待たないようにしましょう。

雪下ろし安全 10 箇条

国土交通省の「雪下ろし安全 10 箇条」から



- 安全な装備で行う
- はしごは固定する
- 作業は
2人以上で行う
- 足場の確認を行う
- 雪下ろしのときは
周りに雪を残す

- 屋根から雪が落ちてこないか注意する
- 除雪道具や安全対策用具の手入れ点検を行う
- 除雪機の雪詰まりはエンジンを切ってから棒などで取り除く
- 携帯電話を身につける
- 無理はしない



火災時の初期対応

火災現場に居合わせたら、通報・初期消火・避難が重要です。

避難時の行動パターン



誰かに早く知らせる

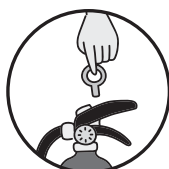
「火事だー」と大声で隣近所に知らせる。

119番通報

落ち着いて、正確な情報を伝える

初期消火
(消火器・水バケツ等)

- 1.「火事です」火災の発生を伝える
- 2.「出火場所」住所や目標物を確実に伝える
- 3.「火災の内容」どこで、何が燃えているのか伝える
- 4.「自分の名前」はっきりとお名前をお伝えください



①安全ピンを抜く



②ホースを外し、
火元へ向ける



③レバーを強く
握って噴射

屋外へ避難
安全な場所で消防隊を待つ

※消火器で消火できる炎の限度は概ね天井の高さまでです。
※濡らしたタオルやハンカチで口・鼻を押さえ、姿勢を低くして避難してください。

初期消火の方法

コンロ

- ・油なべにあわてて水をかけるのは厳禁です。
- ・消火器を使用し、油なべの全面を覆うように噴射する。
- ・消火器がない場合は、濡らしたバスタオルなどを手前からかぶせ、空気を遮断する。

ストーブ

- ・消火器で消すのが原則。
- ・消火器がない場合は、濡らした毛布などを手前からすべらせるようにかぶせ、空気を遮断する。

電気器具

- ・いきなり水をかけると感電の危険がある。
- ・コンセントを抜くかブレーカーを落とし、粉末消火器で消火する。

カーテン・ふすま・障子

- ・カーテン、ふすま、障子は火が燃え上がる時の道すじになります。
- ・燃え広がる前の消火が重要です。
- ・カーテンは引きちぎって、ふすまや障子はけり倒してから消火する。

避難の基本を知る

地震に備える

風水害・土砂災害に備える

その他の災害と緊急対応

日頃の備え

知っておきたい応急手当

出血

①傷口を圧迫する

傷口に、ガーゼや清潔なハンカチなどを直接当てて強く押さえます。



②じかに血液に触れない

感染予防のため、ビニール・ゴミ袋などを利用し、血液に直接触れないようにします。



③傷口を心臓より高くする

傷口が指や腕であれば、傷口を心臓より高い位置に持っていくことで、出血量が減ります。



やけど

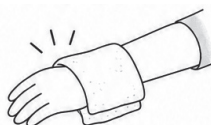
①すぐに水で冷やす

洗面器に水道水を流しっぱなしにして火傷した手足などをつけます。



②患部にガーゼを当てる

冷やした後、火傷した部位を清潔な布やガーゼで軽く包み、すぐに医療機関へ行きます。



③水ぶくれはつぶさない

水ぶくれをつぶすと感染が起きやすくなります。そのまま早めに医療機関へ行きましょう。



※衣服を着ているときの冷やし方

着たままの状態で冷やした後、水をかけながら注意して脱がせます。脱がせにくいときははさみで切ります。ただし、皮膚が衣服にゆ着している場合は無理にはがさないこと。

骨折

①動かさないように傷や出血の手当をする

※骨折の見分け方

- ・ケガをしているところが不自然に変形している。
- ・腫れて痛みが激しい。
- ・骨が突き出している。
- ・外見からは分からなくても疑わしいときは骨折と考え、手当します。

②患部を固定する

添え木を当て、骨折した部分の上と下の関節を固定し、骨折部分がずれないようにします。

添え木がない場合は、手近な代用できる物（傘など）を使いましょう。

